



映像を離れた場所でもスマホなどで確認できる電球型Wi-Fiカメラ「DIAMOND」



1. 「IT業界の代弁者になりたい」という思いを社名に込めた
2. 名古屋鉄道の公式スマホアプリ「名鉄Touch」
3. カメラ画像内の変化を検知するとライトが点灯し、自動録画も行う
4. 飯田真資社長（右）と小山洋永取締役（左）

株式会社DRAGON AGENCY

画像認識技術を活用した医療介護分野における見守りシステム

ドラゴンエージェンシー

所在地	愛知県名古屋市 中村区名駅五丁目 23番17号 名駅フォレストビル3F	設立年月	平成22年7月
		資本金	2000万円
		TEL	052(569)5230
		FAX	052(569)5231
		URL	http://www.dragonagency.co.jp

スマホで簡単にカメラ映像を確認。
多くの場面に利用でき、汎用性高く、
効果的な方法を模索しながら拡販へ

大手企業との取引を重ねる

DRAGON AGENCY（ドラゴン エージェンシー）。この特徴的な社名は歴史好きという飯田真資社長が決めた。「龍（ドラゴン）は人に正しい道を示すとされる伝説の存在。当社もIT業界の指針、代弁者になりたい。ドラゴンのエージェントとして」という思いが込められている。

同社はソフトウェアの企画・開発・運営などを手がける。設立が平成22年とまだ若い企業だが、さまざまな業種の大手企業と取引し、有用なビジネスアプリケーションを提供している。

例えば①銀行の窓口で役席（管理職）の承認が必要な取引が発生した際に、役席の携帯端末に情報を送信して離席のときでも承認行為を可能にするシステム②物流において温度、湿度、衝撃など貨物の品質にかかわる情報を「見える化」するシステムなどがあ

る。これらは業務用で目に触れる機会は少ないが、一般向けのものもある。その一つが「名鉄Touch」。名古屋鉄道の公式スマホアプリで、時刻表やダイヤ検索などができる。「ダウンロード数、利用者数ともにJRを除く私鉄系では全国トップクラス」（飯田社長）を誇っている。

顧客の課題解決からスタート

設立から実績を着実に重ねている同社だが、顧客から相談を持ち込まれるケースが多くなっているという。そして現在、「顧客の課題からスタートし、その解決策としてのシステム、ソフトウェアなどに汎用性を見いだせば、開発して販売する」（同）ことを事業の基本スタンスとしている。

そんな同社に老人介護施設から相談が持ち込まれた。「徘徊する入居者がおり、その形跡をつかみたい」という内容だ。同施設はこれまで職員の目視で記録していたが、負

担が大きい。また、人感センサーを用いた記録システムなどは存在するが、工事が必要で導入コストが高いという課題があった。

画期的な電球型カメラを完成

これに対し同社は「誰にでも簡単に取り付けられる電球に映像記録の機能を付け、その映像をスマホで確認できるようにする」というアイデアが浮かんだ。そして、「同種の製品やサービスがないかを調べたところ当時は存在せず、自社開発することにした」（小山洋永取締役）。

開発には多額の投資が必要となったため、平成25年度補正中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業（ものづくり補助金）を活用。関連企業と連携しながら開発に取り組み、電球型Wi-Fiカメラとその専用アプリ「DIAMOND」を完成した。

同製品は本体にSDカードをセットし、既設の電球ソケットに取り付ける。そしてスマ

ホやタブレットなどに専用アプリをダウンロードするだけで使える簡単さが特徴だ。

Wi-Fi内蔵でインターネットに接続し、専用アプリを使えばどこからでもスマホなど端末で電球のカメラ映像を確認できる仕組み。また、人を検知すると端末に連絡が入ったり、自動録画を行ったりするほか、端末からライト点灯などのリモート操作も可能だ。

さまざま分野での利用に期待

同製品は老人介護施設にて検証し、高い評価を得た。同社では「一般家庭の防犯、ペットの見守り、工場の作業状況の監視など、さまざまなシーンで使え、汎用性が高い」（飯田社長）としている。このため、今後、同社の事業スタンスに沿って拡販する考えだ。

同製品は完成まで「改良を重ね、補助金がなければ不可能だった」（同）。今後も同社ではさまざまな支援を得ながら、IT業界の“ドラゴン エージェンシー”を目指す。

CASE

13

株式会社DRAGON AGENCY

- 試作開発
- +
- 設備投資

対象類型
ものづくり技術
事業類型
成長分野型